



## スクールフード

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

今回のテーマは「スクールフード」、すなわち学校で生徒に提供される食事についてです。

この連載でも何度か書いておりますように我が家には小さな子供が3人おります。上が6歳の娘、下は3歳の双子男子です。娘は小学1年生で、プレスクール（保育園・幼稚園）時代も含めると学校生活は3年ほどになります。双子の息子は、娘とは別の小学校に併設されたプレスクールに9月に入学したところです。娘の学校も息子たちの学校も、双方とも普通の公立校で、日本語的表現でいえば「現地校」となります。これら2つの学校をみていると、「学校で生徒に提供される食事」のあり方が米国では日本とかなり違ってきます。

まずは「スクールランチ」、つまり学校での昼食についてです。日本だと小学校で食べる食事といえば「給食」です。生徒が配膳から片付けまでの役割を担い、全校生徒が一緒のものを食べるのが「給食」であるとすれば、「給食」は米国にはありません。

娘が通う小学校では、学年ごとに決められた昼食時間になると子供たちはカフェテリアに食べに行きます。このカフェテリアは、外

部の“業者”が学区から委託されて運営しています。

この学校には4歳から通えるのですが、そんな小さな子供でもカフェテリア通いとなります。子供たちは、スクールランチのメニューから、メインディッシュとサイドディッシュを選びます。お弁当（サンドイッチなど簡単なものが多い）を自宅から持ってくるのも自由で、彼らはお弁当をカフェテリアに持って行って他の子供達と一緒に食べます。ちなみに、スクールランチの値段は1食\$2.60（約300円）。

娘が通うこの学校では最近大規模な改装が行われて、カフェテリアや業者も新しくなりました。そのお披露目のようなかっこうで、学校でスクールランチの試食会が開催されました。写真にあるのがその際に出された試食品です。サンプルなのでどのプレートも少ししか入っていませんでしたが、なかなか美味しかったです。ご飯は玄米でした。

一方、双子の息子が通うプレスクールは、昨年開校したばかりの新しい学校です。カフェテリアや大掛かりな調理設備がないため、この学校では業者と契約し、個別にパックされたランチを教室にデリバリーしてもらって



Daily Special		Favorites		Daily Special		From the Field	
				Garden Her. Salad Greens, Cucumber Slices, Jicama Style Garbanzo Beans, Carrots			
MONDAY	Hawaiian Style Pizza			MONDAY	Roasted Butternut Squash		
TUESDAY	Jamaican Jerk Chicken Bowl			TUESDAY	Roasted Corn		
WEDNESDAY	Grilled Chicken & Waffles			WEDNESDAY	Collard Greens		
THURSDAY	Texas Chili Mac			THURSDAY	Broccoli & White Bean Salad		
FRIDAY	No School Today			FRIDAY	No School Today		
Creations		Daily Special		From the Field		Daily Special	
							Fruit Chutney
MONDAY	Classic Cheese Pizza			MONDAY	Fresh Apple/1 Chilled Pears		
TUESDAY	Hot Turkey Ham & Cheese Sandwich			TUESDAY	Applesauce/ Orange Smiles		
WEDNESDAY	Sudanese Meat Sauce w/ Rice			WEDNESDAY	Fresh Apple/1 Banana		
THURSDAY	Traditional Hamburger			THURSDAY	Mixed Fruit Salad/ Orange Smiles		
FRIDAY	No School Today			FRIDAY	No School Today		

<ul style="list-style-type: none"> <li>• egg and cheese panada pie (vg)</li> <li>• spaghetti and meatballs (df)</li> <li>• bbq chicken wrap</li> <li>○ diced carrots w/ pinto beans</li> </ul> <p style="text-align: right;">6</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• cheese ravioli with marinara sauce (vg)</li> <li>• cheesy chicken quesadilla</li> <li>• honey mustard chicken wrap</li> <li>○ local sweet potatoes</li> </ul> <p style="text-align: right;">7</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• orange chicken rice bowl (df)</li> <li>• bbq chicken pasta with mozzarella and corn</li> <li>• southwest veggie wrap (vg)</li> <li>○ pinto beans with broccoli florets</li> </ul> <p style="text-align: right;">13</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• sweet garlic noodles</li> <li>• crispy chicken sandwich (df)</li> <li>• egg salad sandwich (vg) (df)</li> <li>○ local sweet potatoes</li> </ul> <p style="text-align: right;">14</p>



います。生徒がメニューから好きなものを選ぶ形式は、娘の学校と同じです。

この学校は、ワシントン市内でも近年再開された区域にあり、住民もヒップな人が多いせいか (?), 食材制限のない「レギュラー」メニューだけでなくベジタリアンメニューも選択できます。グルテンフリーメニューなどのアレルギー除去食も用意されています。

値段は1ヶ月で\$44 (約4500円)。ランチの中身については残念ながら写真を用意できませんでしたが、メニューからだけでもけっこう健康的な食事だと想像できるでしょう。

この学校は公立ですが、「モンテッソーリ」という教育メソッドで生徒を教えています。モンテッソーリでは調理も教育カリキュラムに入っており、3歳の子供達は、自分でパン、クッキー、マフィン等をつくって食べるということもやっています。スクールランチに自分たちで調理した「サブ」メニューがあるのがなかなか興味深いです。

次は「スクールブレイクファスト」、朝食です。昼食が出されるのは日本でもあたりまえですが、朝食となると違和感がありますね。

米国では相当数の学校が朝食を無料で提供しています。貧しくて何も食べずに学校に来る子供がたくさんおり、空腹の彼らは授業を集中して聞くことが難しいということが問題となって、朝食が無料で提供されるようになりました。質の良いメーカーのヨーグルトなどが供されており、しっかりと栄養が摂れるよう配慮されています。それが無料なのです。

先日、息子の学校の朝食風景を撮った写真が学校から送られてきました。双子の片割れが、何を選んで食べるかを真剣に考えているところが写っています。彼は、どれを選択しても、すべてを選択しても、あるいはまったく食べなくてもよいのです。我が家では普段、朝食を家族全員で一緒にとっていますが、食いしん坊の彼らは学校に行ってもまた食べます。彼らにとっての2度目の朝食は、日本でいうところの「早弁」のようなものでしょう。

最近の日本では貧困層にある子供が増えていて、食事は給食頼みなのに給食費が払えないケースがあったり、家でご飯を食べられないので常にお腹をすかしている子供がいたりすると伝え聞きます。無料で朝食を食べたいだけ食べることができるシステムを税金で導入し、お腹を満たして授業に集中できるようにしたなら、これは日本でも素晴らしい公共サービスになるのではないのでしょうか。

### 筆者紹介

宮川良夫 (みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント  
 1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。  
 1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイビー特許業務法人を初めとして、世界7カ国(地域)にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子(孫?)育て。好きな言葉は「天地不仁」。